

第1回 清瀬市消防団活動のあり方検討会 会議録

1 開催日時

令和6年7月31日（火）18時から19時30分まで

2 場所

清瀬市役所2階市民協働ルーム

3 会議内容

（1）開会

（2）座長挨拶

座長による挨拶を行った。

（3）委員の自己紹介

各委員から自己紹介を行った。

（4）検討会の趣旨及び進め方について

事務局から説明を行った。

（5）検討会の公開について

事務局から委員会の公開について説明を行った。

委員の総意により本検討会が公開となることが決まった。

（6）市が考える消防団の課題について

市が考える消防団の課題について、消防団員とその家族へ向けたアンケート調査、多摩地域26市に実施した消防団活動に関する調査から考えられる課題を事務局から説明した。

（7）意見交換

- ・ほとんどの意見・苦情が、操法大会のようだ。
- ・各分団で操法訓練に参加している団員は熱量があり一生懸命にやっている。
- ・先輩団員と本人、本人と後輩団員とのつながりについて、尊敬・信頼できる関係が構築できているかが重要。
- ・本人の不満を本団、分団幹部が寄り添って聞いてあげれば不満は少

ないと思う。面と向かって言える環境があれば溜め込まなくて済む。

- ・団員の背景にいる家族へのフォローが大切。家族にとっては、家にいてほしいときにいてもらえないこともある。ある分団では、団員家族向けの操法訓練の練習見学会を実施している。このように、一生懸命やっている姿を家族に見てもらい、活動について理解してもらう必要がある。

- ・基本、ボランティアなので無理はさせたくないし、プライベートの時間を大切にしてほしい。その一方で、命にかかわる活動のため、日頃の訓練は非常に大切である。このあたりのバランスを組織として、考えていく必要がある。

- ・練習がキツイ、暑い等の話は出ている。

- ・以前は、練習期間を6月から行っていたところを現在は7月から行うことで操法訓練の練習回数を減らしている。

- ・消防団活動に対する熱量はあるが、人員の入れ替えがうまくいかないがため、毎年同じメンバーでの訓練参加等になっている。そのため、団員歴が長い人が疲弊してしまっている。

- ・（新人勧誘について）色々なところにアンテナを張って勧誘していくことが重要。祭りや、イベントで一緒にいる若い世代に積極的に声をかけていく必要がある。

- ・来てくれた若い人にやりがいや意義をいかに伝えるかが重要。ただ入れるだけではだめ。

- ・視察やイベントなどを通じての分団間のコミュニケーションも重要

- ・今の若い世代は、なぜこれをやるのか理解できないと、なぜやらされているのか理解できないとやらないため、そういった方向で教えていく、育てていく必要がある。

- ・訓練のノウハウを伝え限られた時間で有効な手段を伝えたい。訓練は時間と回数ではなく要素とやり方である。それが、団員本人たちへの負担軽減につながる。また、安全確実に活動をしてもらうには一定の訓練が必要であり、その一番基礎になるのが操法訓練で、その次に活動訓練である。それが結果的には、大変な消防団活動のモチベーション、やりがいに繋がっていき、その姿が、市民の方の目に触れて、消防団は頼もしい、私も消防団に入りたいといった相乗効果に繋がればいい。

- ・従来に比べ団員のサラリーマン化・価値観の多様化が進んでいる現在、これまでの活動を連綿と続けるのみでは消防団活動の持続可能性は乏しいと考えられる。

- ・操法大会や訓練、リクルートに関して大会時期・練習頻度の改善提案などが多数見られた。これらについて議論し、抜本的な改革を前提に行動していかなければならない時期に来ている。
- ・自主防災組織が担っている活動の一部を消防団にも担ってもらい、地域の防災リーダーを多く抱える組織へとする。

(8) その他

- ・委員から「他自治体における検討会の開催状況」、「式典、表彰、出初式のあり方」について調査要望があった。
- ・次回日程等について事務局より報告を行って閉会となった。